

履修計画作成について

(1) 履修計画作成のために必要なこと

①真剣にじっくりと考え続けること

科目登録の時期だけ考えるのではなく、日常的に考え続けることが大切です。「友達と同じ科目にしたいから」「試験がないから」等の安易な選択の仕方はもちろんだめです。また、進路をあまり限定的に考え過ぎないことも大事です。

②具体的に動くこと

考えるだけでは不十分です。具体的に調べたり、話を聞いたり、多くの情報源にあたることが大切です。

③ひとりで決めないこと

積極的に人に相談することが大切です。担任・副担任・チューター 以外のいろいろな先生にも相談してみましょう。また、保護者・先輩・友人など幅広くいろいろな人に話を聞いたほうがいいと思います。

④しっかりと勉強すること

夢を持っていても、努力なしには実現しません。努力せずに科目選択だけで希望がかなうわけではありません。選択後の努力を前提に科目を選びましょう。

(2) 科目選択のためのチェックポイント

①将来の進路・職業選択を見通した科目選択になっていますか。

→「進路の手引き」をよく読んでください。

②自分の興味・関心にあった科目選択になっていますか。

③高校生としての基礎的・基本的な学力が身に付けられる科目選択になっていますか。

④卒業要件となる必履修科目が選択されていますか。

⑤年間の授業単位は34単位（水曜全日制2限・定時制5限の総合・LHRは含まず）以内になっていますか。

⑥入学年度から卒業年度までの履修計画がバランスよくできていますか。

⑦履修順序など、年間指導計画に書かれている履修要件は満たされていますか。また、履修上の注意をよく確認しましたか。

(3) 必履修科目

高等学校を卒業するには、必ず学習しなければならない「必履修科目」があります。中学校まではクラスごとに時間割が設定されていましたが、本校では皆さんが自分で科目を選び、自分の時間割を作ることになります。自分の時間割の中には、必ず必履修科目を入れてください。

また、それぞれの年次で必ず学習することになっている科目もあります。

〈必ず学習する科目〉

1年次・・・体育(3)・保健①(1)・総探A(1)

2年次・・・体育(3)・保健②(1)・総探B(1)

3年次・・・体育(2)・総探C(1)

() の数字は単位数

(4) 履修順序

科目名の後ろに「Ⅰ,Ⅱ」等と付いているものがあります(例えば数学Ⅰ)。それらの科目はⅠ→Ⅱ→Ⅲという順序で履修することになります。ですから、3年間でⅢまで学ぼうとするときは1年次にⅠ、2年次にⅡ、3年次にⅢという計画が必要です。

また、「数学B」は「数学Ⅰ」が「履修済み」でなければいけません。

「A、B」と付いているものは内容を区別するだけです。科目説明文の「履修要件」を参照してください。

【履修順序の決まっている科目】

■数学

数学Ⅰ → 数学A(同時も可)、数学B、数学C

数学Ⅰ → 数学Ⅱ

数学Ⅰ, 数学A → 数学Ⅰ(増単)

数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B → 数学Ⅲ, 数学Ⅱ(増単)

■理科

物理基礎 → 物理+物理(増単)

化学基礎 → 化学 → 化学(増単)

生物基礎 → 生物 → 生物(増単)

地学基礎 → 地学

■芸術

音楽Ⅰ → 音楽Ⅱ → 音楽Ⅲ

美術Ⅰ → 美術Ⅱ → 美術Ⅲ

工芸Ⅰ → 工芸Ⅱ → 工芸Ⅲ

書道Ⅰ → 書道Ⅱ → 書道Ⅲ

■外国語

英語コミュニケーションⅠ → 英語コミュニケーションⅡ → 英語コミュニケーションⅢ

■家庭総合①② → 保育基礎, フードデザイン, ファッション造形基礎

(5) 必履修科目の学習の仕方

令和4年度以降入学生の必履修科目は次のようになっています。

【令和4年度以降入学生の必履修科目一覧】

国語・・・「現代の国語」「言語文化」の2科目
地理歴史・・・「歴史総合」「地理総合」の2科目
公民・・・「公共」の1科目
数学・・・「数学Ⅰ」の1科目
理科・・・「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から3科目
保健体育・・・「体育」「保健（保健①・保健②）」全て履修
芸術・・・「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「工芸Ⅰ」「書道Ⅰ」から1科目
外国語・・・「英語コミュニケーションⅠ」の1科目
家庭・・・「家庭基礎」「家庭総合（家庭総合①・家庭総合②）」から1科目
情報・・・「情報Ⅰ」の1科目
総合的な探究の時間・・・「総探A」「総探B」「総探C」を全て履修

それぞれの教科で例を示しましょう。

〈国語〉

「現代の国語」「言語文化」。

〈地理歴史〉

「歴史総合」と「地理総合」の両方を履修。

〈公民〉

「公共」のみ。

〈数学〉

「数学Ⅰ」のみ。

〈理科〉

「化学基礎」＋「生物基礎」＋「物理基礎」、「化学基礎」＋「生物基礎」＋「地学基礎」などがあります。

〈保健体育〉

「体育」と「保健」は必ず学習します。「体育」は8単位（1・2年次に3単位ずつ）、「保健」は2単位（1・2年次に1単位ずつ）履修しなければなりません。基本的に「保健②」を「保健①」より先に履修することはできません。

〈芸術〉

「音楽Ⅰ」、「美術Ⅰ」、「工芸Ⅰ」、「書道Ⅰ」から1科目選択。

〈外国語〉

「英語コミュニケーションⅠ」

〈家庭〉

「家庭基礎」のみ、「家庭総合」のみのどちらかです。2つは学習できません。なお、「家庭総合」は2年に渡り、2単位ずつ学習します。基本的に「家庭総合②」を「家庭総合①」より先に履修することはできません。

〈情報〉

「情報Ⅰ」のみ。

(6) 「分割履修」科目について

1つの科目の単位を2年間に分けて履修することを分割履修と言います。本校では以下の科目を2年間に分けて履修する科目として設定しています。

<例>

- ① 「かていそうごう家庭総合①」・「かていそうごう家庭総合②」
- ② 「ほけん保健①」・「ほけん保健②」

「◇◇①」と「◇◇②」がセットになっていますので、「◇◇①」を履修した翌年に「◇◇②」を必ず履修してください。同じ年度に「◇◇①」と「◇◇②」の両方を履修することはできません。

ただし「保健①」は1年次後期、「保健②」は2年次前期に履修しますから、「保健①」が履修できなかった場合は、2年次で「保健②」と同時に履修することができます。

また、「保健（保健①・保健②）」は必履修科目ですから、「保健①」「保健②」のどちらかが未履修の場合は卒業ができません。

万が一「◇◇①」を修得したものの、「◇◇②」が修得できなかった場合は、「◇◇①」で修得した2単位(保健の場合は1単位)は卒業に必要な単位数に加えることができます。しかし、「その科目を修得した」ことにはなりません。

(7) 「半期認定」科目について

「体育」は通年で開講されていますが、単位認定は半期ごとでされます。欠席が多いと前期または後期の単位が認定されませんので注意しましょう。

- 【1年生：前期体育2単位、後期体育1単位】【2年生：前期体育1単位、後期体育2単位】
- 【卒年次：前後期体育1単位ずつ】

例 1年次の場合・・・

前期の単位は認定されましたが、後期は欠席が多くなり後期分の単位修得ができなくなりました。この場合、前期分の「2単位」は習得できたが、後期分の「1単位」は未履修となります。

(8) 教科別履修にあたっての諸注意 (1年次選択科目に関わるもの)

【理科】

- ① 大学受験に理科が必要な人は、増単科目{物理(増)・化学(増)・生物(増)}まで必ず履修してください。
- ② 看護・医療系に進学を希望する生徒は、必ず「化学」を履修し、「生物」または「物理」を履修することを勧めます。選択については次を参照してください。
 - i) 看護師・理学療法士・作業療法士を希望する場合は「生物」を履修してください。(理学療法士は必要に応じて「物理」を履修することが好ましい。)
 - ii) 放射線技師・臨床工学を希望する場合は「物理」を履修してください。
- ③ 栄養系、生活科学系に進学を希望する生徒は、「化学」の履修を勧めます。
- ④ 理工系大学進学希望者は「物理」と「物理(増)」、「化学」と「科学(増)」の履修が必要です。
- ⑤ 医歯薬科系および農獣医系大学進学希望者は「生物」と「生物(増)」、「化学」と「化学(増)」の履修が必要です。
- ⑥ IT・工学系の専門学校に進学を希望する生徒は、「物理基礎」を必ず履修してください。

【芸術】

- ① 「音楽Ⅱ」「美術Ⅱ」「工芸Ⅱ」「書道Ⅱ」は、前年度までにそれぞれの科目の「Ⅰ」が履修済みであることが必要です。同様に「音楽Ⅲ」「美術Ⅲ」「工芸Ⅲ」「書道Ⅲ」は、各科目の「Ⅱ」が履修済みであることが必要です。
- ② 分野科目も含め、教材費がかかる科目が多いので、負担も考えて履修してください。また、教材費未納者は希望科目を履修することができません。
- ③ 芸術の中の異なる科目(「美術」と「工芸」など)を同一年度に2つ以上同時履修することはできません。

【家庭】

- ① 今年度「家庭総合①」を履修している生徒は、来年度「家庭総合②」を履修しなければなりません。
- ② 家庭総合4単位を履修した後、3年次で以下の専門科目を履修することができます。興味のある生徒は履修してください。
 - ・保育…「保育基礎」・食物…「フードデザイン」・被服…「ファッション造形基礎」

【数学】

- ① 「数学Ⅰ」を履修しないと卒業できません。
 - ② 「数学Ⅰ(増単)」は「数学Ⅰ」「数学A」の演習、「数学Ⅱ(増単)」は「数学Ⅱ」「数学B」の演習を行います。
 - ③ 理工系大学を希望する生徒は1年次で「数学A」、2年次で「数学Ⅱ」「数学B」「数学Ⅰ(増単)」、3年次で「数学Ⅲ」「数学Ⅱ(増単)」を履修することを勧めます。
 - ④ 看護・医療系に進学を希望する生徒は、「数学Ⅱ」「数学A」は必ず履修してください。「数学Ⅱ」は学校によって必要になることがあります。
 - ⑤ 文系大学を希望する生徒は、受験科目を調べ、必要な科目を履修しましょう。(経済学部は「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」を履修するのが好ましい。)
- ⑥ 令和4年度入学生(21期生)から、「数学A」は選択科目になります。

進路別履修ガイドライン2022

4年制大学進学希望者は、次の4パターンの中から、一番自分の理想に近いパターンをさがし、そこから足したり引いたりしてみよう。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
私立文系	1年次	総探	現代の国語	言語文化	歴史総合	地理総合	数学Ⅰ		化学基礎	生物基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	家庭基礎 または 家庭総合①	情報Ⅰ																					
	2年次	総探	公共	物理基礎 または 地学基礎	体育	保健	論理国語①	古典探究①	地理探究または 日本史探究または 世界史探究		英語コミュニケーションⅡ		論理・表現Ⅰ	文学国語	(家庭総合②)	教養・発展科目および分野科目																					
	3年次	総探	体育	論理国語②	古典探究②	現代文研究	古典研究	地歴探究科目 増単科目	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅱ	発展英語	文学国語	教養・発展科目および分野科目																								
私立理系	1年次	総探	現代の国語	言語文化	歴史総合	数学Ⅰ		数学A	化学基礎	生物基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	家庭基礎	情報Ⅰ																					
	2年次	総探	地理総合	公共	物理基礎 または 地学基礎	体育	保健	論理国語①	数学Ⅰ 増単科目	数学Ⅱ		数学B	化学		生物		英語コミュニケーションⅡ			論理・表現Ⅰ																	
	3年次	総探	体育	論理国語②	数学Ⅱ 増単科目	数学Ⅲ		数学C	物理		物理 増単科目	化学 増単科目	生物 増単科目	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅱ	教養・発展科目および分野科目																					
国公立文系	1年次	総探	現代の国語	言語文化	歴史総合	地理総合	数学Ⅰ		化学基礎	生物基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	家庭基礎 または 家庭総合①	情報Ⅰ																					
	2年次	総探	公共	物理基礎 または 地学基礎	体育	保健	論理国語①	古典探究①	地理探究または 日本史探究または 世界史探究		数学Ⅱ		数学A	数学B	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅰ	(家庭総合②)	教養・発展科目および分野科目																			
	3年次	総探	体育	論理国語②	古典探究②	現代文研究	古典研究	文学国語	地理探究または 日本史探究または 世界史探究		地歴探究 増単科目	数学Ⅰ 増単科目	数学Ⅱ 増単科目	数学C	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅱ	発展英語	教養・発展科目および分野科目																			
国公立理系	1年次	総探	現代の国語	言語文化	歴史総合	数学Ⅰ		数学A	化学基礎	生物基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	家庭基礎	情報Ⅰ																					
	2年次	総探	地理総合	公共	物理基礎 または 地学基礎	体育	保健	論理国語①	数学Ⅰ 増単科目	数学Ⅱ		数学B	化学		生物		英語コミュニケーションⅡ			論理・表現Ⅰ																	
	3年次	総探	体育	論理国語②	古典研究	数学Ⅱ 増単科目	数学Ⅲ		数学C	物理		物理 増単科目	化学 増単科目	生物 増単科目	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅱ	教養・発展科目および分野科目																				

教育課程について

令和4年度（2022年度）入学生の教育課程表（予定）

教科	必修科目(必) 選択必修科目		選択科目						
	科目	単位数	教養・発展科目		分野の科目				
			科目	単位数	分野	教科	科目	単位数	
国語	○現代の国語(必)	2	○論理国語	4	芸術	芸術	◆キーボード実習	2	
	○言語文化(必)	2	○文学国語	2		芸術	◆陶芸	1	
			○国語表現	2		芸術	◆デジタルデザイン	2	
			○古典探究	4		芸術	◆陶芸	2	
			○古典B	4		芸術	◆実用書道	2	
			◆現代文研究	2		◇音楽	◇器楽	2	
			◆古典研究	2		◇美術	◇素描	2.4	
地理歴史	○地理総合(必)	2	○地理探究	2					
	○歴史総合(必)	2	○日本史探究	4.6					
			○世界史探究	4.6					
公民	○公共(必)	2	○倫理	2		国際	◆国際	◆韓国朝鮮語	2
			○政治・経済	2			◆国際	◆中国語	2
数学	○数学Ⅰ(必)	4	○数学Ⅱ	4.6			◆国際	◆スペイン語	2
			○数学Ⅲ	4			◆国際	◆ポルトガル語	2
			○数学A	2			◆国際	◆日本語学	2
			○数学B	2			◆国際	◆日本語	2
			○数学C	2			◆国際	◆ニュース英語入門	2
							◆国際	◆ブラクティカルイングリッシュ	2
理科	○科学と人間生活	2	○物理	4.6					
	○物理基礎	2	○化学	4.6					
	○化学基礎	2	○生物	4.6					
	○生物基礎	2	○地学	4.6					
	○地学基礎	2							
保健体育	○体育(必)	8							
	○保健(必)	2							
体育(専門)			◇スポーツⅠ	2	農業(専門)		◇農業	◇野菜	2
			◇スポーツⅡ	2	福祉(専門)		◇福祉	◇社会福祉基礎	2
			◇スポーツⅢ	2	生活文化		◆生活文化	◆コミュニケーション	1
			◇スポーツⅣ	2			◆生活文化	◆一般教養A	2
				◆生活文化			◆一般教養B	2	
芸術	○音楽Ⅰ	2	○音楽Ⅱ	2					
	○美術Ⅰ	2	○音楽Ⅲ	2					
	○工芸Ⅰ	2	○美術Ⅱ	2					
	○書道Ⅰ	2	○美術Ⅲ	2					
			○工芸Ⅱ	2					
			○工芸Ⅲ	2					
			○書道Ⅱ	2					
外国語	○英語コミュニケーション(必)	4	○コミュニケーション英語Ⅱ	4					
			○コミュニケーション英語Ⅲ	4					
			○論理・表現Ⅰ	2					
			○論理・表現Ⅱ	4					
			◆発展英語	2					
家庭	○家庭基礎	2							
	○家庭総合	4							
家庭(専門)			◇保育基礎	2	定通併修(定時制課程)				
			◇ファッション造形基礎	2	教科	科目	単位数		
			◇フードデザイン	2					
情報	○情報Ⅰ	2	○情報Ⅱ	2					
情報(専門)			◇情報システムのプログラミング	2					
			◇情報デザイン	2					
総合的な探究の時間(必)			3~4	学校外における学修					
ロングホームルーム			3						
(必)印をつけた科目以外は、すべて選択必修科目。				◆学校外活動	◆校外講座		4		
※○印は学習指導要領に定められた各学科に共通する各教科・科目					◆技能審査		6		
※◆印は学校設定教科または学校設定科目					◆ボランティア活動		6		
※◇印は主として専門学科において開設される各教科・科目					◆就業体験活動		6		
※ゴシック体は短期集中講座					◆スポーツ・文化活動		4		
☆履修登録できる単位数は34単位まで									
				卒業に必要な単位数は 合計74単位以上(ロングホームルームを除く)					

科目説明文

前期：前期 **後期**：後期 **半期**：前期または後期 **通年**：通年開講 **短期**：短期集中
分割：2年間に分割して履修する教科 **〇〇分野**：分野の科目 **学校設定**：学校設定科目
 (各科目名枠最下段：教科・科目名称)

国語

科目名(単位○内) 履修要件	科目内容	履修上の注意
現代の国語 通年② 履修要件 なし	<p> 評論など論理的で実用的な文章を読むことを通じ、他者と伝え合う力を高め、自ら考える力を育みます。また、文章の組み立て方を理解し、自分の考えが的確に伝わるような論理的な文章の書き方を学ぶことで、実社会で必要な能力を身に付けます。 「現代の国語」は、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、国語で的確に表現する能力を身に付ける授業です。したがって、1年次にこの科目を履修し、国語力の向上を図ります。 </p> <p> ●テスト等 定期テストのほか、必要に応じて漢字テスト・単元ごとの小テストを実施します。 </p>	
言語文化 通年② 履修要件 なし	<p> 日本の言語文化についての理解を深めるために、古典の文章を読んでいます。文法事項などについては、わかりやすく基礎から学んでいます。また、小説や現代の韻文について学習し、ものの見方・感じ方を豊かにしていきます。 高校での古典学習の基本となる授業です。1年次にこの科目を履修し、国語力の向上を図ります。 </p> <p> ●テスト等 定期テストのほか、必要に応じて単語テスト・単元ごとの小テストを実施します </p>	

地理歴史

科目名(単位○内) 履修要件	科目内容	履修上の注意
地理総合 通年② 履修条件 特になし	地理情報の読み取り、活用について学習し、世界各地の自然環境、生活文化、生活圏の防災などについて様々な地図を活用しながら学習します。 作業的・体験的な学習を多く取り入れ、地理情報を活用する力、統計などの情報を読み取り表現する力を身に付け、様々な学習の基礎となる力を養います。 ●テスト等を実施(定期テスト4回)します。また適宜レポート等を課します。評価は、テスト、レポート等の提出物、出欠状況や授業への取り組みなども加味し総合的に判断して行います。	
歴史総合 通年② 履修条件 特になし	近現代の歴史を俯瞰的世界史的に学び、現在の世界の在り方を理解することを目指します。それとともに、日本の歴史についても、特に現代社会の成り立ちを理解する力を養います。よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追及・解決しようとする態度を養います。 ●テスト等を実施(定期テスト4回)します。また適宜レポート等を課します。評価は、テスト、レポート等の提出物、出欠状況や授業への取り組みなども加味し総合的に判断して行います。	

公民

科目名(単位○内) 履修要件	科目内容	履修上の注意
公共 通年② 履修要件 特になし 公民・公共	選挙権年齢が18歳以上に引き下げられました。主権者として判断する際に必要な知識や考え方について、高校生の段階で身に付けておくことが必要となりました。基本的人権、政治のしくみ、経済のしくみ、消費者行動、労働問題、日本の文化などを学んでいきます。 社会にどのように参画していくのかを考えていきましょう。 ●テスト等 定期テスト 評価は、授業中の活動、提出物、小テスト、レポートなどの課題などを総合的に判断して行います。	

数学

科目名（単位○内） 履修要件	科目内容	履修上の注意
数学 I 通年④ 履修要件 特になし	<p>高校数学の基礎的・基本的な科目です。 内容は(1)「数と式」(2)「図形と計量」(3)「二次関数」(4)「データの分析」です。</p> <p>(1)では、中学校で学習した式の展開、因数分解をさらに詳しく学習し、一次不等式などについて学習します。</p> <p>(2)では、直角三角形の辺の比と角の関係などを学習し、正弦定理や余弦定理について理解し辺の長さや角の大きさを求めます。</p> <p>(3)では、二次関数の値の変化やグラフの特徴を学習し、二次関数の最大値や最小値を求めます。また、二次不等式を解きます。</p> <p>(4)では、データの特徴を表す分散や標準偏差、散布図、相関係数を学習します。また、仮説検定の考え方も学習します。</p> <p>●テスト等 定期テストを実施し、適宜レポート等を課します。</p>	
数学 A 通年② 履修要件 「数学 I」を履修中もしくは履修済みであること 数学・数学 A	<p>「数学 A」は「数学 I」と並んで高校数学の基礎となりますから、「数学 I」と同時に履修するか、もしくは「数学 I」履修後早い時期に学習してください。</p> <p>内容は、(1)「図形の性質」(2)「場合の数と確率」(3)「数学と人間の活動」です。</p> <p>(1)では、三角形と円に関する基本的な性質を扱います。中学校の知識の上に色々な性質を考えます。</p> <p>(2)では、集合の要素の個数、「5人の生徒のイスの座り方」が何通りあるかなど（場合の数・順列）の計算から始まり、様々な条件を付けて数学的に考えます。確率では、「さいころを投げる」などという具体的な場面を想定します。</p> <p>(3)では、数量や図形に関することを学習します。数学史的な話題も扱います。</p> <p>このうち、(1)、(2)を学習予定です。</p> <p>●テスト等、定期テストを実施し、適宜レポート等を課します。</p>	理工系への進学を考えている人は、1年次に履修してください。

理科

科目名(単位○内) 履修要件	科 目 内 容	履修上の注意
物理基礎 通年② 履修要件 特になし 理科・物理基礎	<p>中学校理科の基礎の上に、更に深く物理的な事物・現象について学び、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解することを目標とします。物理は理工系の基本科目なので、理工系に進む可能性のある人は必ず履修してください。2年次に履修しておかないと3年次に「物理」を履修することはできません。授業内容は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①物体の運動とエネルギー 運動の表し方、力、運動の法則、力学的エネルギー ②様々な物理現象とエネルギーの利用 熱と温度、波、電気、エネルギーとその利用 <p>●テスト等 定期試験及び課題・実験レポート等の提出があります。</p>	数学Ⅰの一次関数・2次方程式・三角関数の知識を必要とします。
化学基礎 通年② 履修要件 特になし 理科・化学基礎	<p>化学は物質の構造、性質およびその変化を主に扱う学問です。化学基礎では、次のような内容を学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①化学と人間生活 ・化学の特徴、物質の研究 ・単体、化合物、混合物について ・熱運動と物質の三態 ・物質の探求活動 ②物質の構成 ・物質の構成粒子、原子の構造、電子配置と周期律表について ・物質と化学結合、イオン結合、金属結合、共有結合について ・物質構成の探求活動 ③物質の変化 ・物質と化学反応式について ・酸、塩基と中和、酸化と還元について ・物質変化の探求活動 <p>●テスト等 定期試験及び課題・実験レポート等の提出があります。</p>	
生物基礎 通年② 履修要件 特になし 理科・生物基礎	<p>生物学とは「生命とは何か」を探る学問です。その生命は複雑で多様性に富んでいて、難解に思う人もいるかもしれません。しかしながら、神秘的とも言える生命現象を知れば知るほど新たな疑問がわいてくるし、その面白さが分かってくると思います。生物学を学べばヒトを今までと違った面から見ることもできるでしょう。この科目では、次のような内容を学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生物の特徴 生物の多様性と共通性、細胞とエネルギー ②遺伝子とその働き 遺伝情報と DNA、遺伝情報の分配、遺伝情報とタンパク質の合成 ③生物の体内環境とその維持 体内環境、体内環境の維持のしくみ、免疫 ④生物の多様性と生態系 植生と遷移、気候とバイオーム、生態系と物質循環、生態系のバランスと保全 <p>●テスト等 定期試験及び課題・実験レポート等の提出があります。</p>	

科目名（単位〇内） 履修要件	科 目 内 容	履修上の注意
地学基礎 通年② 履修要件 特になし 理科・地学基礎	<p>地学は、私たちの生活の舞台である「地球」についての科学です。地球の故郷である太陽系とその生い立ち、太陽系惑星の中でも奇跡の星と言われる地球の自然環境や現象について学習し、地球についての興味・関心をさらに深めましょう。</p> <p>①宇宙における地球 ・宇宙の構成 ・惑星としての地球 ・宇宙における地球に関する探求活動</p> <p>②変動する地球 ・活動する地球 ・移り変わる地球 ・大気と海洋 ・地球の環境 ・変動する地球に関する探求活動</p> <p>●テスト等 定期試験及び学習プリント、課題・実験レポート等の提出があります。</p>	
科学と人間生活 通年② 履修要件 原則「物理基礎」「化学基礎」「地学基礎」より前あるいは同時に履修するのが望ましい。 理科・科学と人間生活	<p>身近なものから科学の学びを学習します。暮らしの中にある「光と熱」「物質」「生命」「宇宙や地球」の4つのテーマについて学習し、21世紀を生き抜くうえで、これからの科学と人間生活の関わりを考えて生きます。したがって、理科にある基礎科目（物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎）の履修後に本科目を履修するのは望ましくない。</p> <p>① 光と熱 光の性質とその利用、熱の性質とその利用 ② 物質 材料とその再利用、衣料と食品 ③ 生命 生物と光、微生物とその利用 ④ 宇宙や地球 身近な天体と太陽系における地球、身近な自然景観と自然災害</p> <p>●テスト等 定期試験及び課題・実験レポートなどの提出があります。</p>	

保健体育

科目名（単位○内） 履修要件	科 目 内 容	履修上の注意
体育 通年* 履修要件 特になし 保体・体育	<p>必履修科目です。多くの種目に接する中で、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにします。また、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てることを目指します。授業は安全かつ楽しく取り組めるように、基本的な内容から始めて、段階的にレベルを上げて進めます。</p> <p>●テスト等 なし</p>	<p>*各年次で指定された体育を履修。 P49「必履修体育について」参照。</p>
保健 後期① 分割 履修要件 特になし 保体・保健	<p>個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることを目指します。</p> <p>●テスト等 定期テストを実施します。</p>	<p>「保健①」「保健②」は2カ年に渡って履修すること。</p>

芸術

科目名(単位○内) 履修要件	科 目 内 容	履修上の注意
音楽Ⅰ 通年② 履修要件 特になし 芸術・音楽Ⅰ	<p>歌唱、器楽など幅広く学習します。器楽はハンドベルやアルトリコーダーを中心に、日本伝統音楽（箏）にも触れていきます。音楽理論に関しては、中学までに学んだ基礎的な内容を復習しながら問題を解く、という進め方をしていきます。鑑賞は、音楽史の流れに沿って、知られている様々な楽曲にふれていきます。音楽を積極的に取り組める人は履修してください。</p> <p>●テスト等 実技テスト、レポート提出、筆記小テストを行います。</p>	<p>3年間で「音楽Ⅲ」まで履修する場合は、必ず1年次に履修しなければならない。</p> <p>年間教材費として、2,500円程度必要。</p>
美術Ⅰ 通年② 履修要件 特になし 芸術・美術Ⅰ	<p>身近なものを題材にして美術の楽しさ、面白さ、不思議さを制作を通して体験します。そして自分の表現を物を通して形にしていきます。中学のときよりも少し時間をかけて作品を制作します。パネルに水張りしてから描いたり、写真を利用してデザインしたり、ペンや紙を利用して作品を組み立てていきます。</p> <p>●テスト等 実技を中心とし、課題によってはレポートを課します。</p>	<p>3年間で「美術Ⅲ」まで履修する場合は、必ず1年次に履修しなければならない。</p> <p>教材費として、2,000円程度が必要。</p>
工芸Ⅰ 通年② 履修要件 特になし 芸術・工芸Ⅰ	<p>「工芸」とは、実際に使用できる作品を、自分でデザインし、手作りで作りあげることです。切ったり彫ったり磨いたりして、根気よく作品を作るのが好きな人に向いています。工芸Ⅰでは、色々な素材を使って、基本的な作品を作ります。幅広い分野の、色々な制作プロセスを体験し、「工芸」を実感してもらいたいと思います。美しい形とは何か、使いやすい形とは何かを考えながら制作し、出来上がった作品を使ってみることで初めて作品の良さが分かります。作品のイメージを表現することも大切です、学期末には鑑賞レポートの提出もあります。</p> <p>●テスト等 実技制作を中心とし、題材によってはレポートを課します。</p>	<p>3年間で「工芸Ⅲ」まで履修する場合は、必ず1年次に履修しなければならない。</p> <p>教材費として3,000円程度が必要。</p>
書道Ⅰ 通年② 履修要件 特になし 芸術・書道Ⅰ	<p>「書道Ⅰ」は、小・中学校で学んできた、文字を正しく整えて、読みやすく、迅速に書くことを目標とする「書写」の能力をさらに高めるところから始め、用具や基本的な執筆・用筆法、書道用語など、書道の基礎から学びます。毛筆の特性を理解し、それを扱う楽しさを知ったうえで、さまざまな古典に触れていきます。古典の良さを知り、幅広い表現法を学ぶことで、技術を身につけていき、自由制作に向けての土台作りに重点を置きます。</p> <p>書道用具を用意してください。</p> <p>●テスト等 定期テストは実施しません。必要に応じて理論テストをする場合があります。</p>	<p>3年間で「書道Ⅲ」まで履修する場合は、1年次に履修しなければならない。</p> <p>教材費として3,000円程度が必要。</p>

外国語

科目名(単位○内) 履修要件	科 目 内 容	履修上の注意
英語コミュニケーション I 通年④ 履修要件 特になし 外国語・英語コミュニケーション I	中学校における基礎力の定着を図り、言語活動の5つの領域（聞くこと・読むこと・話すこと（やり取り）・話すこと（発表）・書くこと）全般の能力を伸ばすことを目標にします。 また同時に単語テスト等を行い語彙力の定着も図ります。 ●テスト等 前期、後期ともに、中間試験・期末試験を行います。評価は定期試験、授業中の活動、提出物、課題などを総合的に判断して行います。	

家庭科

科目名(単位○内) 履修要件	科 目 内 容	履修上の注意
家庭基礎 通年② 履修要件 特になし 家庭・家庭基礎	1年間で、人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについての基礎と基本を学習します。家庭基礎は2単位のため、限られた時間の中で内容を精選して行います。調理実習では、衛生面から身支度（三角巾、エプロン、マスクの着用、爪を短く切る、ピアス、指輪を外す、マニキュア、ジェルネイルを落とす）を整えることを求めます。 ●テスト等 定期テストを実施。プリント、作品の提出、取り組み姿勢などを総合的に評価します。	実習費として 500円程度が必要。
家庭総合 通年② 分割 履修要件 履修後は「家庭総合②」を履修しなければならない 家庭・家庭総合	家庭総合は、4単位の必修科目です。家庭総合①では、4単位のうちの前半2単位の内容を学習します。 学習内容は、(1)人の一生と家族・福祉 (2)子どもや高齢者の関わりと福祉 (3)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 (4)衣生活 についてです。 なお家庭科には保育基礎、フードデザインやファッション造形基礎といった発展科目がありますが、これらを選択するためには家庭総合を履修してください。 ●テスト等 定期テストを実施。プリント、作品の提出、取り組み姿勢などを総合的に評価します。	被服実習の際、 1,000円程度の布の購入が必要。 実習費として 500円程度が必要。

情報

科目名(単位○内) 履修要件	科 目 内 容	履修上の注意
<p>情報 I 通年②</p> <p>履修要件 特になし</p> <p>情報・情報 I</p>	<p>高等学校情報の基礎的・基本的な科目です。情報では今年度からの新科目になります。また大学入学共通テストの受験科目になる予定です。</p> <p>学習内容は「問題解決」、「情報デザイン」、「プログラミング」、「ネットワーク」が中心となります。中学校の技術家庭で学んだことや、数学 I の知識を使う内容があります。</p> <p>とくに理系文系関係なく、情報の知識を身につけることができ、日常生活で実践できる情報リテラシーや問題発見・解決力の向上を目指します。</p> <p>●テスト等 実技だけでなく定期テスト(筆記)があります。実習課題(問題演習等)などを随時提出してもらいます。</p>	<p>マウス操作やローマ字入力程度の基礎的な PC 操作ができることが望ましい。</p>